

海外国際学会参加報告書

氏名：保坂 碧

所属：遺伝学専攻 育種遺伝学研究部門 角谷研究室（平成 28 年 9 月 修了）

2016 年 11 月 2 日から 5 日にかけて、コールドスプリングハーバー研究所で行われた転移因子に関する学会に参加した。研究所はその名の通りニューヨーク州ロングアイランド島にあるコールドスプリング湾に沿って建てられている（図 1, 2）。

コールドスプリングハーバー研究所は分子生物学の創成に多大な貢献をした研究が行われた地として有名である。また、バーバラ・マクリントックがノーベル賞を受賞する理由となった転移因子に関する研究もここで行われたことから、この場所で発表する機会を得たことは自身にとって非常に感慨深いものがあった。

今学会は総演題数が 80 弱と比較的小さい規模のものだったが、世界中から著名な研究者が集まり、最先端の転移因子研究の動向を知ることが出来た。口頭発表は 6 つのセッションに分かれて行われた。一人当たりの発表時間はあらかじめ決まっていたようだが（時間がくると演台の上に置いてあるファージの模型の色が消える仕掛けがしてあったと記憶している）、質問が続く限り白熱した議論が繰り広げられた。私の発表は会期 2 日目の午後に行われたポスターセッションであった。（タイトル: "Rapid evolution of sequence-specific anti-silencing systems in Arabidopsis."）同じ分野の研究者が集まる学会とあって、内容の濃い議論を交わすことができた。また、自らの研究テーマを推進するにあたり参考になる実験手法や研究結果については、発表者と直接議論するなど、非常に有意義な時間を過ごせたように思う。

会期中、参加者の大部分は所内に点在するゲストハウスに宿泊することになる。私が宿泊した "Hooper House" は、偶然にもかつてバーバラ・マクリントックが住んでいた部屋だった。ノーベル賞受賞が決まった日の朝、自宅に電話のないマクリントックに受賞を知らせるため、研究室のスタッフなどが Hooper House のドアを叩いて起こしたそうだ（図 3）。

学会では毎朝 9 時にセッションが始まり、22 時半頃に終わる。その後は所内にあるバーで飲みながら議論の続きをするのがお決まりの流れだった。ちなみに、このバーは 17 時頃から開いており、DNA 二重らせんの発見者の一人であるジェームズワトソンも時々飲みに来ているそうだ。（残念ながら私は出会うことができなかったのだが。）

本学より渡航支援を受けて参加した今学会では、国内外から集まる同分野の研究者と活発に議論することで、より専門的な知識を深化させ、今後の研究課題推進のための重要な情報を得ることができた。また、転移因子の研究分野における自らの立ち位置を知るよい機会にもなった。今回の渡航での経験は、自身の今後の研究に大きく役立つと期待される。



図 1. 研究所入り口の看板。サンクスギビングデーに向けて飾り付けがされている。



図 2. 朝のコールドスプリング湾のパノラマ写真。ちょうど紅葉シーズンのまっただ中で非常に美しい景色が広がっていた。



図 3. 宿泊した Hooper House の全景および入り口。ほかにも何人が写真を撮っていた。